

県、ワサビ田で生物調査

世界農業遺産認定向け

本県ワサビ栽培の世界農業遺産の認定に向けて県は22日、ワサビ田に生息する生物を調べる生物多様性調査を始めた。初日はワサビ栽培発祥の地とされる静岡市葵区有東木の4カ所を調べ、溪流ではあまり見られない生物が見つかった。水の流れが緩やかなワサビ田が、多様性を高めていると裏付ける結果になりそうだ。

(経済部・白本俊樹)

県によると、ワサビ生生物が生息するが、田は肥料や農業をほとんど使わず環境負荷が少なくないため、多くの水の調査は初めてとい

う。

ワサビ田に生息する生物を調べる研究員

22日午前、静岡市葵区有東木

(本社・東京都)の研究員2人が生物を採取した。

ヒラメキガイやカクツツトビケラ類など、水流が緩やかな水場に生息する生物が見つかった。このほか周辺の溪流も調べた。調査した同社の吉成暁研究員は「ワサビ田によって、自然にはない環境がつくられているからこそ、すみ着いている生物がいる」と話した。今後、サンプルを持ち帰って分析する。調査は23日に伊豆市筏場のワサビ田でも実施するほか、冬季の調査も予定している。

本県のワサビ栽培は

3月に日本農業遺産に認定された。現在は世界農業遺産を認定する国連食糧農業機関(FAO)への申請に向けて農林水産省と調整中。認定基準には営農を通じた生物多様性の保全などが盛り込まれている。

有東木では、県から委託を受けた建設環境コンサルタンツいであ